

# 医療法人名南会 第55回定時総会特集号

## 第55回定時社員総会のご案内

法人定款第20条の規定による「医療法人名南会 第55回定時社員総会」を開催いたしますので  
ご通知申し上げます。

2020年4月 医療法人名南会  
理事長 三宅 隆史

●日時：2020年5月30日(土)

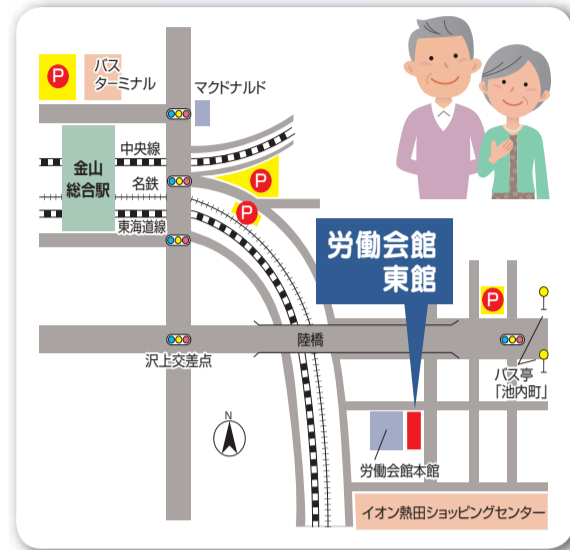
■開場・受付開始 午後1時30分

■総会議事 午後2時～5時

(新型コロナウイルス感染症対策により総会議事を変更する  
予定です。)

■場所 金山・労働会館  
東館2Fホール

名古屋市熱田区沢下町9-7  
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分



第548号(部内資料)  
(毎月1回、1日発行)

発行  
医療法人 名南会  
名古屋市南区豊田  
五丁目15番18号

発行責任者  
西本 義弘  
☎052-692-2388

## ● 2019年度の各事業所の活動のふりかえり ●

### 名南病院

2019年度の名南病院は「もっとも  
困難な人たちのめんどろみのいい病  
院」をビジョン(将来に対する挑戦的  
な目標)に掲げ、多彩な事業活動を進  
めてきました。

**1 入院医療**：入院患者さんの高齢化が急  
速に進むもとで、地域包括ケア・退院支援・  
在宅復帰支援の強化を目指してきました。  
2019年度は友の会のみなさんのご協力を頂  
き、入院患者さんを対象にした「院内うたご  
えデイケア」を開催。参加された患者さんか  
らは「懐かしい歌をみんなで歌えて楽しかっ  
た」など毎回好評です。患者さんが安心して  
退院し、在宅で生活できるように、多職種カ  
ンファレンスの準備や運営の改善を進め、内  
容の充実が図られてきています。



入院患者さん対象「院内うたごえデイケア」

**2 外来医療**：名南病院では、2019年度  
から主治医が生活習慣病を中心に、他院の服  
薬状況の管理、健診・予防接種、介護保険の  
管理・相談まで、病気から生活全般を支える

「かかりつけ医診療」(地域包括診療料の届  
出・算定)がはじまりました。

2019年度は新たに2つの多職種チームが  
発足しました。CKD(慢性腎臓病)チーム  
では、外来の定期通院患者さんの検査値を  
チェックし、フォローが必要な患者さんへの  
療養相談を進めてきました。循環器チームで  
は、毎月多職種による症例検討会を開催する  
とともに、職員への心電図学習会を開催しま  
した。

すべての職員が患者さんの生活や社会背景  
を意識した外来をめざし、昨年4月からSDH  
(健康の社会的決定要因)の視点を取り入れ  
た初診問診票の使用を開始しました。問診票  
への記載から医療費の相談、無料低額診療事  
業の利用につながるケースもうまれています。

外来の抜本的な改善を目的に昨年10月に、  
「外来改善アクションプラン」を策定しまし  
た。プランの具体化の一つとして、ことし2  
月からは各診察室の診察までの順番を受付番  
号で表示する「診察順番表示システム」の運  
用を開始。患者さんからは、診察までの順  
番のわかりやすさや名前を呼ばれなくなっ  
たことへの評価の声が出されています。初診  
患者さんに対するきめ細かい診療を目的に、「  
初診外来」もはじまりました。

「足が不自由で自宅から歩いて通院するの  
が大変」など、名南病院への通院に関わる困  
難をサポートするとりくみとして、職員によ  
る送迎を開始し、8名のべ43回の利用があ  
りました。

**3 医師の確保と養成**：「法人医師確保プ  
ロジェクト」では、名南会とのつながりのあ  
る医師を中心に、ニュースレターの定期的な  
発行や病院見学のお誘いなどを進めてしま

した。2019年度は以前に名南病院で勤務経験  
のある医師が、診療所での定期診察を担当し  
て頂く成果も生まれました。愛知民医連の  
初期研修プログラムにもとづいて9名(計11  
回)の研修医が、外科、糖尿病、リハビリ  
テーション科、地域医療などの研修を行いま  
した。医学生実習では、学外実習11名、つな  
がり学生の実習1名、奨学生1名の計13名の  
実習受け入れを行いました。

**4 地域組織活動**：地域訪問行動は計6回実  
施し、のべ66名が参加。67件を訪問し27件  
の対話ができ、治療を中断されていた患者  
さんが受診されるケースもありました。資金募  
集運動は夏や秋のキャンペーン期間中は連日  
の外来行動を行い、昨年度に続き4,000万円  
の年間目標を達成しました。10月に開催した  
「名南健康まつり」には150名の方が参加さ  
れ、昨年に続き実施した健康をテーマにした  
スタンプラリーを開催し好評でした。名南病  
院の講堂では引き続き「ほんわか食堂」「み  
のり塾」などが開催され盛況です。リハビリ  
テーション課による「のみこみ相談室」や  
「健康講座」のとりくみが行われました。

**5 地域連携**：近隣の特別養護老人ホーム  
や開業医への訪問・懇談を継続的に実施し、  
新たにサービス付高齢者向け住宅との協力医  
療機関に関する協定を締結しました。無料低  
額診療事業は19年度はのべ280件、新規承認  
は60件となりました。若年層のインターネット  
を通じた相談が増加しています。

**6 経営活動**：2019年度の年間利益目標  
(5,629万円)の達成に向けて、全職員への  
経営情報の発信などを重視してきました。

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため  
社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。

2019年度は入院・外来収益とも前年度を大きく伸ばし、前年度の経常赤字から経常利益を確保することができました。

**2020年度は、外来での「かかりつけ医」診療の拡充や、多職種協働による地域包括ケア・退院支援・在宅復帰**

**支援などを中心とした入院医療の質の向上を進めていきます。**

## 名南ふれあい病院 介護医療院名南ふれあい病院 名南介護老人保健施設 かたらいの里 ヘルパーステーションきずな

2019年度は①引き続き医療・介護活動の2つの柱を同時に追求しよう、②「地域の福祉力」を高めるまちづくり運動を共同組織とともにすすめよう、③民医連綱領をあらためて学び現場での実践に結びつけよう、④第7次長期計画(最終年度)を達成し次計画につなげよう、以上の4つの活動目標を定め、取り組んできました。

活動目標ごとの到達は、①では全日本民医連の医療・介護活動の2つの柱でもある無差別平等の医療介護の実践としては、まず第一に挙げられるのはリハビリテーションを必要とする患者様の入院受け入れを積極的に行っていることです。また老人保健施設と介護医療院での無料低額利用事業を積極的に進めてきました。質の向上に関しては安全文化が醸成できる職場づくりをすすめるために5S活動(注1)の導入に向けて準備を進めています。安全性の向上に関してはベッドの更新、患者・利用者様用のいすの更新、放射線科の撮影台の更新、フラットパネルの導入を行いました。ま

た、今年度は学習して質を向上させるためにeラーニング(インターネットを利用した学習形態)を全職員が受けられるようにしました。



老健かたらいの里での「立ち上がり訓練」の様子

②では認知症徘徊模擬訓練を健康友の会とともに実施しました。これについては継続して開催していきたいと考えており、参加の呼びかけも地域にどんどん広げていきたいと思っています。健康教室も継続して開催し参加者は増え続けています。協同基金について件数は目標数に届きませんでした。目標の3200万円は達成することができました。友の会員はふれあい支部で45人増やすことができました。共に活動を行う友の会員をさらに増やしていきたいと思っています。

③については2019年度は綱領を改めて学ぶ機会となりました。綱領が改訂され10年ということで学習ブックレットを全職員に配布し、学習会を開催しました。各部署でも学習がすすめられ前向きにとらえる意見が多数出されました。

④について、2019年度は第7次長期計画

の最終年であり、計画の締めくくりとして必要利益の確保を必須としました。決算作業はこれからですが、年間を通じてふれあい病院、かたらいの里、介護医療院それぞれで目標とする利益をほぼ確保できたと思います。年間を通じて入院患者、入所者を確保できたことが大きかったです。職責者をはじめとしたスタッフがベッド稼働や利用者数を常に意識するようになってきたことが経営の安定に繋がっていると感じています。

しかし年度末になって新型コロナウイルスの感染が増加してきたことによってわたしたちの医療・介護活動は大きな影響を受けました。管理部をはじめとして職員全員が感染対策に追われ、近隣の医療機関・施設の動き方も影響し、ベッド稼働・利用数が低下したことで経営的にも打撃がありました。いつ終息するか予測がつかないですが、入院患者・入所者様に感染させないことを一番考えていかなくはなりません。大変な状況ですが患者様達のいのちを守るためにも全職員で立ち向かっていきたいと思っています。

これらの活動をすすめていくには医師体制が大きく影響しますが、下半期には副院長として岡根医師が名南病院から異動となり、2月には老人保健施設の医師として尾藤医師が着任しました。2020年度も新しい医師体制で医療・介護活動に取り組み、大きく発展できるように努力していきたいと思っています。

(注1)職場環境改善、組織活性化、人材育成をめざす活動：整理、整頓、清掃、清潔、習慣

## 名南診療所 デイサービス庵 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は名南会の2病院(名南病院・ふれあい病院)、老健かたらいの里、ヘルパーステーションと連携し、予防医療や急性期治療から在宅介護サービスまで、地域の方の生活の多くの場面に関わりながら医療・介護活動を行っています。

皆様の【住み慣れたおうちで暮らし続けたい!】という思いに寄り添うために、敷地内には訪問看護ステーションきずな、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、デイサービス庵もあり、在宅療養のサポートに力を入れています。

そして、これからも皆様とともに地域を支えていく存在としてあり続けるために、今期は診療所のプチリニューアルを行いました。外壁の色を決める際には皆様にもシール投票をして頂いたり、資金面でも協同基金の協力で応援して頂くなど、地域の皆様とともに成長し続けてい

ます。



リニューアルが完成した名南診療所

名南診療所は「在宅療養支援診療所」として365日24時間対応の体制で、体が不自由で通院が困難な方、人工呼吸器や点滴・経管栄養の管理、褥瘡ケア、がん末期を含むターミナル管理から看取りまで、さまざまな医療管理を必要とする方々の在宅療養を法人内外の医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの関係機関と協力してサポートしています。

2019年度は名南診療所がこれから先、どんな役割を担っていくべきなのか職員が議論を重ね【さあ! さあ! さあ! 気軽にいらっしやい。目指すは「まちの保健室」】がキーワードとなりま

した。高齢化と共に外来通院が厳しくなり訪問診療(往診)に切り替わる方も増えています。外来受診者が前年に比べ毎月20~30名少なくなる一方で、訪問診療には相場医師を迎え体制を強化。月167名~180名の方のお宅に訪問診療・往診にうかがい、「家で過ごしたい」という希望をどのように実現するかをご本人・ご家族、そして多職種で支えてきました。

居宅介護支援事業所も地域の皆様の介護相談にも柔軟に対応できるよう、職員を1名増員し3名体制にすることが出来ました。要支援の方から要介護の方までどんな小さな介護相談にも対応できるよう2020年は更に相談件数を増やしていきます。

通所リハビリは、今できる力を少しでも長く維持できるよう、利用者様それぞれに役割を持っていただくことを大切にしています。皆様に、楽しく生き生きと過ごしていただくために、部署内での研修も積極的に行いながら、ケア・サービスの質向上に努めました。

デイサービス庵では、「断らない介護」をアピールし、様々な状況の方の受け入れをしてきました。これからもアットホームな雰囲気の中で心の安らぐ時間を過ごしていただけたらと思います。

訪問看護ステーションきずなは、学生の受け入れも積極的に行い後継者育成に力を入れつつ、名南診療所や他の医療機関と連携しながらターミナルケアに積極的に取り組んできました。その人らしさを大切に、「最期まで家で過ごしたい」という気持ちに寄り添い、ご家族もサポートすることを大切にしています。

地域組織活動では、協同基金は呼びかけの

掲示や班会での声かけも行き、多くの皆様のご協力を得ることができ、年間の目標協力金額の1000万円を2年連続で達成することができました。1口からの協力も件数が増え続けています。また、毎月第2火曜日には内田橋トスカでの「健康ひろば」に参加し、健康体操や健康チェックを担当してきました。

名南診療所はどんな些細な事でも何か困っ

た事があった際に、「そうだ!ととりあえず診療所に相談してみよう!」とお願いいただける“まちの保健室”を目指し2020年度も法人内・法人外の様々な事業所・友の会の皆様と連携・協力しながら、地域の方々の健康と生活を支えてまいります。

## 中川診療所 ヘルパーステーションひなた 住宅型有料老人ホームひなた

2019年度は地域の方々がもっとかかりやすい中川診療所を目指し、月曜日の午前には医師をもう一人配置したところからスタートしました。4月まで発熱等の急性疾患が続いていたり、花粉症患者が出てきたりしていたため、新たに赴任して下さった医師も活躍することができました。

近医のクリニックが院長の退職により閉院しました。しかし退職した院長と、患者さんが中川診療所の患者さんとなりました。

さらに、飛び込みで企業健診の予約が入り、年に2度1回に30名ほどの健診を行うことができました。そこから受診につながる方もおり、

今年度は患者数を増やすことに成功しました。しかし、特定健診の件数は昨年度よりも減っているため、新患の方にはもちろん、今年度健診を受けていない患者さんに看護師と事務で手分けをしておすすめの電話かけなどを行いました。今年度は新型コロナウイルスの影響で2019年度の特定健診が5月末まで受けていただけだったので、声かけを続けていこうと思います。

中川診療所に併設している居宅介護支援事業所と通所リハビリは要支援の方も要介護の方も受け入れ、件数を確保してきました。ヘルパーステーションひなたは営業活動を定期的に行い、月に2件の新規利用者を確保することができました。また収益予算を達成することもでき、大きく前進することとなりました。老人ホームひなたは18床満床状態を継続することができ、班会も結成しました。班会の時には、手作りランチを作っています。時には入居者さんも一緒にご飯を作るときもあり、楽しく班会ができています。

地域活動では、2019年度から定期的な地域訪問を開始しました。気になる患者さんや、特定健診未実施の患者さん宅へ友の会の方と訪問し対話をしました。気になる患者さんの中には受診を中断している方や、薬の管理ができなくなった患者さんがいました。外来運営会議を開き、気になる患者さんたちにどう接し、お話ししていくかを話し合っています。

2020年度も地域の方々が安心して暮らしていける地域の診療所としてお役に立てるよう職員一同努力して参ります。



地域で開催する「健康づくり」懇談会



法人4事業所外来の合計 (名南病院・名南ふれあい病院・名南診療所・中川診療所)



法人4事業所及び施設の入院・入所の合計 (名南病院・名南ふれあい病院・介護医療院名南ふれあい病院・名南介護老人保健施設かたらいの里)



法人全事業所の総事業収益



2015年度は出資金増資額も含まれています。2016年度以降は、出資金の募集終了により協同基金のみとなっています。

# 医療法人名南会 2020年度方針(案)

新型コロナウイルス感染症が世界的に広がっています。急激な感染拡大や突然のイベント自粛や一斉休校などもあり、地域の方々の不安も強くなっています。社会的弱者を守り生業と雇用を守る生活保障の徹底、感染症拡大に向き合う医療・介護供給体制の整備、誰もが安心して必要な検査・治療が適切に受けられる皆保険制度の構築、それを確実に実行できるだけの医療・介護専門職の確保と育成が重要となっています。これらは、私たちが進める「人権としての社保運動」の方向そのものです。また、マスクや衛生材料、消毒用アルコール等の深刻な不足状況が発生しています。現場の実態を告発し、自治体などへの要求も強めていく取り組みが、ここでも求められています。

安倍政権は、9条改憲に固執し憲法と立憲主義を破壊し、辺野古新基地建設の強行、生活を破壊する消費税増税、森友・加計問題や桜を見る会などに見られるように政治の私物化、隠ぺい・改ざんなど民主主義の根幹を破壊する行為を続けています。こうした政府のもとで、「全世代型社会保障改革」と称してさらなる給付削減と全世代への負担増を強いようと、医療、介護、年金、生活保護などの制度改悪案を具体化してきています。私たちは、愛知民医連に結集し「国民健康保険アンケート」に取り組みました。回答者の75.2%が「国保料の負担が高い」と回答し、「経済的事由

によって医療機関に行くのを先延ばしにした」との回答が27.1%に及び、治療中断も15.4%ありました。「人権としての社保運動」を旺盛に進めていくことが求められています。

子どもの7人に1人が相対的貧困状態にあり、年収200万円未満の労働者は2018年には1098万人、労働者の21.8%に上り、13年連続で1000万人を超えています。貯蓄なし世帯は、単身世帯で39%、2人以上世帯でも23%となっています。一方で、国内で1億1千万円以上の金融資産保有者は281万人に増加し、上位10人が持つ金融資産額の合計は、国民一人あたり貯蓄額の83万3千人分に相当します。大企業の内部留保は、2018年度に史上最高の449兆円で日本の国家予算を大きく上回る状況です。人口減少・超高齢化も広がっています。地域での支え合い活動に加え、公的な支援制度を拡充し、権利としての社会保障を全世代へ向けて底上げすることが必要です。

医療法人名南会は、2017年度から2019年度までの第7次長期計画をもとに運営してきました。今総会では、2020年度から2022年度までの第8次長期計画を確立します。名南会の今後の展望をつくり出すスタートの年としていしましょう。



## 2020年度の重点課題方針

### ① 平和憲法を守り、政府の「全世代型社会保障改革」に反対し、「人権としての社保運動」を地域と職場からたたかう

安倍9条改憲発議阻止、辺野古新基地建設強行中止、核兵器禁止条約締結、地球環境保全などを掲げ、地域の諸団体との共同の運動を広げます。安倍政権の「全世代型社会保障改革」阻止の大運動、地域医療を守る運動をすすめます。患者・利用者の困難な実態や事例を把握し、当事者として主体的に国民的な運動に参加します。

### ③ 「全職員の経営」を貫き、全事業所で管理運営体制を強め、法人全体で月次経常利益予算の達成をはかる

政府の低医療費政策のもと医療・介護経営は深刻な状況が続いています。「全職員の経営」を貫く管理運営、全日本民医連が確立してきた経営方針と教訓を生かすことが必要です。「綱領と歴史」学習運動と「2つの柱」の実践を基本に、全職員参加の経営のための管理会計制度である事業所独立会計の確立、介護事業の管理強化をはかります。

### ② 貧困と格差・超高齢社会に真正面から向き合い、「スタッフが元気になる医療・介護活動」を展開する

多くの患者さんは医学的に多疾患併存状態にあり、貧困や社会的孤立が背景にあるほど困難を伴います。地域の医療機関や介護施設や行政との「連携」、多職種による「協働」を深め、「スタッフが元気になる医療・介護活動」を展開します。すべての職種の技術、技能の修練と社会的な使命の自覚が促進されるよう支援していきます。

### ④ 健康友の会とともに、健康増進活動、ささえ合い活動をすすめ、誰もが安心して住み続けられるまちづくりをめざす

無差別・平等の地域包括ケア、安心して住み続けられるまちづくりが、重要な課題です。地域のさまざまな団体や個人と結びつき、連携を強めていきます。事業所と友の会が協力し、居場所づくり、助け合いや支えあい、職員が医療・介護の専門職として地域で力を発揮し、友の会員拡大、協同基金募集と健診運動を目標を持って強めます。

### ⑤ 民医連綱領と日本国憲法を日常的に学び、民医連らしい運動と事業に裏付けられた職員育成をすすめる

医師、看護師の確保と育成を強め、政府の政策動向にも注目し、働き方の改善を進めます。電子カルテの活用を進め、法人内連携強化、業務改善、経営改善につなげていくことを重視します。次代を担う役員・管理者の育成を重視します。民医連と名南会の展望に確信を持ち、民医連綱領と日本国憲法、名南会の歴史を学ぶ取り組みをすすめます。

# 2019年度 地域組織活動

## 安心して住み続けられるまちづくりと 無差別平等の地域包括ケアの実現めざして

### ① 「地域の健康づくり」の運動を事業所と共同組織(友の会)が一体となってすすめてきました

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標を決め、地域での健康づくりのとりくみをすすめました。また、地域で健康づくりの輪を広げてきました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各地域支部との共同のとりくみとして、友の会班会や地域訪問での検診お勧め行動にとりくみました。また、一昨年度より始めた検診受診希望者の送迎も引き続き行いながら、受けやすい検診をめざしました。友の会は地域で広げる郵送大腸がん検診などに独自の目標をもって取り組みました。しかし結果は、大腸がん検診、乳がん検診で昨年実績を上回ったものの、特定健診は前年を下回りました。前年度受診者への確実な働きかけを行いながら気軽にかかれる魅力ある検診への工夫が必要です。

HPH(ヘルスプロモーションホスピタル・健康増進活動)は、両病院の推進委員会のもと活動が強化されていますが、昨年度は各事業所の医療活動の中にテーマを置いて取り組みを前進させることとしました。

「健康ウォーキング」は秋に行いました。トスカでのまちかど健康チェックと健康体操、名南病院ラジオ体操と百歳体操も定期的に継続されています。中川診療所では、引き続き「健康づくり懇談会」(3会場のべ33名参加)を開催しました。



トスカ健康ひろば(健康体操)

### ② 各事業所・地域ごとに目標をもった資金募集にとりくみ、引き続き多くの社員・友の会員の方に協力をいただき、1億円(2年連続年間目標1億円達成)の協同基金が寄せられました。

“名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同で、今年度も各事業所で外来や病棟での訴え・地域訪問行動などにとりくみました。年間で2回のキャンペーン月間に取り組み、「協同基金がどのように生



名南病院待合室で協同基金の訴え

かされているか」など各事業所ごとの訴えをもとにそれぞれの宣伝チラシを作成し活用するなどの工夫した訴えかけで、全事業所目標と法人全体の年間目標を総達成することができました。一昨年は3



秋の地域組織活動強化月間・中川診療所スタート集会

年ぶりに資金運動年間目標が達成できましたが、昨年と2年続けて目標達成となりました。

### ③ 友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動が広がっています。地域に交流の場・居場所づくりをすすめ、民医連事業所と友の会が共同して、安心して住み続けられるまちづくりと無差別平等の地域包括ケアの実現をめざしました。

5事業所内で開催しているコーヒーサロン、2カ所で開催しているお食事サロン、ゆめっこ広場(子育てサロン)、認知症カフェ(カフェひまわり)などは定期的に継続開催されています。特に、中川診療所のサロン(なかしんさん)では、ケアマネジャーが毎回同席し医療や介護、健康相談なども行うことで大変貴重なとりくみとなっています。



「みのり塾」子どもたちと調理実習

ほんわか食堂(子ども食堂・2カ所開催)は三周年を迎え、港区でも地域民生委員の皆さんの参加で地域に定着しています。愛知こども食堂ネットワークを通じて、県内の他の子ども食堂との連携もとれ、必要であれば名南病院の無料低額診療事業利用につなげることを意識しつつ取り組んでいます。3年目となる子ども学習支援「みのり塾」では、困難をかかえる地域の子どもたちとつながり、さらに保護者の方の相談も増えてきています。

安心して暮らせるまちづくり、高齢者の見守り、生活支援活動を広げています。「お助けプロジェクト(名南健康友の会)」、「助けあおまい会(中川健康友の会)」は、ゴミ出し、掃除、通院送迎など利用者さんに喜ばれる支援を継続しています。



名南病院職員による通院送迎

また、名南・中川健康友の会とも、「気になる会員さん」訪問・「熱中症予防」訪問行動を職員と友の会の共同で定期継続しています。安心して暮らせるまちづくりに向けて、地域住民が主体となる住民の健康づくり運動(自治体への要求運動)をめざし、区交渉(減免の会)では難聴補助、子ども食堂への自治体参加、健診の充実について具体的に要求しました。



中川診療所「熱中症予防」地域訪問行動



南区交渉で子ども食堂について要請発言する名南会職員



**4 平和、くらしを守るとりくみ～みんなで学んで みんなで行動～。安倍9条改憲NO!憲法を生かす(3000万人署名)、安全・安心の医療と介護の実現(25条署名)、社会保障制度の拡充の運動に全力で取り組みました。**

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切に、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と健康友の会が「名南会社保平和委員会」として、これらの運動に共同で取り組み、原水爆禁止世界大会・平和行進などへの参加と合わせ、2019年5月から名南病院前とふれあい病院近隣交差点にて毎月9が付く日(9日・19日)にスタンディングアピール行動を実施しました。



名南病院前・職員と友の会共同による「9の日行動」

2019年度は昨年度から引き続き「安倍9条改憲NO!憲法を生かす全国統一署名(3000万署名)」「25条署名」、そして「2019年10月から消費税10%中止を求める請願署名」や秋の国連総会をゴールとする「ヒバクシャ国際署名」を重点に健康友の会員や各事業所で患者さんに訴え活動を進めました。署名数は「3000万署名」4840筆、「25条署名」は2292筆、「消費税10%中止署名」1383筆、「ヒバクシャ国際署名」3476筆でした。



原水爆禁止世界大会・長崎に参加した名南会代表4名

また、愛知県民医連加盟事業所で行った「国民健康保険に関するアンケート」に取り組み、名南会では148名の方に協力いただき、その結果をもとに愛知社保協や地域の諸団体とともに区交渉を行いました。

**5 楽しい友の会全体企画、地域での行事などでは、職員、共同組織相互の親睦が深められました。名南・中川健康友の会は9303名の会員数となりました。また、民医連の共同組織との交流を深め学びました。**

友の会と職員が協力し、各事業所・地域での健康まつりな

どを引き続き成功させてきました。また、友の会員の要求に応えた春・秋の行楽企画なども取り組みました。恒例企画「大須演芸場初笑い」は、119名の参加で成功させました。



名南健康友の会春の行楽・彦根城へ

引き続き1万人の友の会を目標に会員増やしに取り組みましたが、両友の会で新たに437名の友の会への入会がありました。転居等による減少も多く、昨年比で114名の純増にとどまりました。



名南健康友の会秋の行楽・妻籠へ

「第7回東海北陸地協共同組織活動交流集会(富山)」に名南健康友の会4名、職員1名で参加し、自分たちの活動を報告し、他の民医連の活動経験も学びました。

**6 地域ネットワークの拠点としての友の会の支部・班づくりをすすめました。名南健康友の会では緑支部・天白支部で新たな班づくり、会員増やしで活動が前進。**

健康友の会緑支部、天白支部は設立から2年経ちます。緑支部に1つ、天白支部でも1つの新しい班会が結成され、名南会事業所から遠く離れた地域でも活発に活動をしています。両支部合わせてこの1年間で80名以上の会員が増えました。

名南・中川健康友の会で豊田地域の2つを含めて5つの班が新たに誕生しました。共同組織(友の会)の会員数の大幅増、さらなる活動の発展に向けて思い切った組織整備を進めることとし、名南・中川健康友の会の組織統合、新たな地域支部づくりについて検討・準備をすすめます。



名南健康友の会・緑支部東部班結成のつどい

